

留学生支援ボランティア
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期) III
学生交流)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007679

Ⅲ 学 生 交 流

留学生支援ボランティア

熊井 浩子／袴田 麻里

留学生支援ボランティアは平成14年度より活動が始まったが、24年度は12月現在で静岡キャンパス52名、浜松キャンパス20名、計72名となっている。静岡キャンパスでは、23年度後期の段階で登録はしているもののほとんど活動していない学生もいたため、24年度前期に、全登録者に改めて継続の意思を確認した結果、数は大幅に減少した。その主な原因は、これまで留学生との交流を行う大学公認のサークルと掛け持ちの登録をしていた学生の一部がボランティアに再登録しなかったためである。国際交流センターが特に交流の場を提供しなくても、学生同士が積極的に交流を進めていること自体は望ましいことではあるが、交流サークルとは異なった留学生のニーズもあることから、依然として留学生支援ボランティアの存在意義は大きい。このため、国際交流センターでは夏季短期留学参加者や国際交流センターのイベント参加者へのボランティアについての情報提供などにより、新たな登録者数の確保に力を入れ、一定の数まで回復していると言えるが、さらなる増加が望まれる。また留学生の登録者の増加も課題である。平成24年度12月までの部局別登録者数は、以下の通りである。

年度	人文	教育	農	理	工	情報	合計
15年度	7	22	8	0	4	5	46
16年度	24	21	8	5	5	6	69
17年度	13	26	5	10	7	6	67
18年度	19	44	5	4	16	6	94
19年度	29	46	6	3	9	5	98
20年度	43	40	7	3	19	4	116
21年度	36	31	5	5	20	6	103
22年度	40	35	4	6	26	14	125
23年度	46	30+2=32	6+1=7	6+2=8	13+5=18	11	122
24年度	18	23	5+1=6	5	8+7=15	5	72

*+の前が学部生、あとが大学院生である。+がないものは学部生のみ。

留学生支援の主な活動内容は以下の通りである。

1) 日本語教育支援

国際交流センターで行われている日本語授業に参加し、留学生の日本語学習を支援する。具体的には、会話の相手、討論会での意見交換、異文化授業への参加、留学生発表会の見学などがある。その他、授業外に日本語の勉強のサポートや会話のパートナーになってもらう例もある。近年はこの会話パートナーの希望が増えている。

2) 生活支援

日本に慣れない留学生のために、日本の生活を紹介する。友人を紹介したり、街の中

を案内したり、買い物を手伝ったりする。

3) 日本文化紹介

日本に関係することで、得意なこと、好きなことを留学生に披露する。特に、茶道や書道、柔道や剣道、折り紙やあやとりなど、伝統的な日本文化を留学生に伝える。

4) イベントへの参加

国際交流センターで企画するイベントに主催者側または参加者側として参加する。

これらの支援活動は、留学生支援が必要となったり、交流活動があったりする場合、Eメールによって登録されたボランティア学生に直ちに連絡され、都合のつくボランティアが参加するという形をとっている。また、年度始めには、キャンパスごとに全員が集まって、説明会が開かれている。静岡キャンパスでは、上記のような活動のほかに、サマースクール(6月下旬～7月上旬実施)で来日する韓国人留学生のために支援グループを募り、3週間にわたって交流活動をおこなった。また、10月には開催されたボランティア学生と新規来日留学生との交流会(静岡キャンパス)が開催され、交流を深めた。この他にも、校外学習や日本語授業に参加するなど、活発な交流が行われている。

浜松キャンパスの交流活動は、4月と10月の留学生ガイダンス後のパーティー、国際交流会館・あけぼの寮説明会後のパーティーへの参加だけでなく、支援ボランティア学生自身の企画として、学祭案内と忘年会を企画した。特に学祭案内は、母国の大学では、大学祭がないという留学生もおり、少人数で深く交流する機会となった。生活支援は、アパート探しや契約など住居に関する支援が多かった。また、日本語学習支援は、主として日常生活や勉学に必要な日本語力が不足している大学院生との、会話パートナーや日本語授業参加などの活動である。連絡はメールで行うが、ボランティア学生同士の交流・情報交換のために月1回のミーティングでその月の活動報告、企画の相談をする機会を設けている。しかし、所属や学年の違う学生が一堂に会するのは難しく、出席者が安定しないのが現状である。

この活動をきっかけとして留学に興味をもつ学生も多く、また、派遣留学、私費留学を問わず、留学後に支援ボランティアに加わる学生も多い。静大の留学生との交流はもちろんだが、この活動が留学への第一歩、あるいは帰国後の新たな目標設定と結びついてくれるような場となることを期待している。